

偕行社新春靖國神社参拝

慰霊・援護委員会

1月8日(土)、偕行社は新春靖國神社参拝を行いました。

この日は、「陸軍始」と呼ばれた重要な日で、いわば大日本帝国陸軍の仕事始めの日でありました。偕行社では例年この日に賀詞交換会を行ってきました。

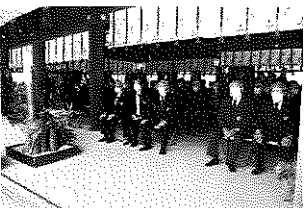
参拝に先立ち、参集殿に集まった会員に対し、森理事長より「偕行社は現在慰霊顕彰の改革にも取り組んでいます。英霊の慰霊には、主催者、慰霊の対象、形式などいろいろですが、明治健軍以降の全ての陸軍将兵の英霊に対する慰霊の行事はいまだにありません。これを偕行社は、従来の月例参拝及び市ヶ谷台慰霊祭を集約・統合して、4月17日に靖國神社において慰霊祭を斎行することとしました。この日は陸軍が初めて国の命運をかけて戦った明治以降の最初の大きな対外戦争である日清戦争終結の日であり、列国の例に倣い、その日に行くこととしたものです。

偕行社へは自衛隊退職有志が入会しており、陸自退職幹部の会として

組織的に継承されていません。そこが水交会と違うところです。4月27日に陸自退職幹部の会の立ち上げがなされますが、この会との合同を経て組織的に継承していつて貰えるよう偕行社の将来について話をしていきたいと考えています」との挨拶がありました。

当日の偕行社参拝者は、最年長の従前会員の陸士58期生から54期のご遺族を含め最年少は陸自会員の孫娘6歳まで合計140名でした(写真)。

拜殿で全員お祓いを受けた後、本殿へ進み、代表者7名が玉串奉奠、全員で246万6千余の英霊に対し拝礼をしました。



その後靖國国会館「偕行の間」で弁当食をいただくという簡素なものですが、静かな中にも久々の旧交を温める時間となりました。遊就館の当日拝観券が配られて遊就館へ向かったグループも多かったようです。天気にも恵まれ穏やかな一日となりました。